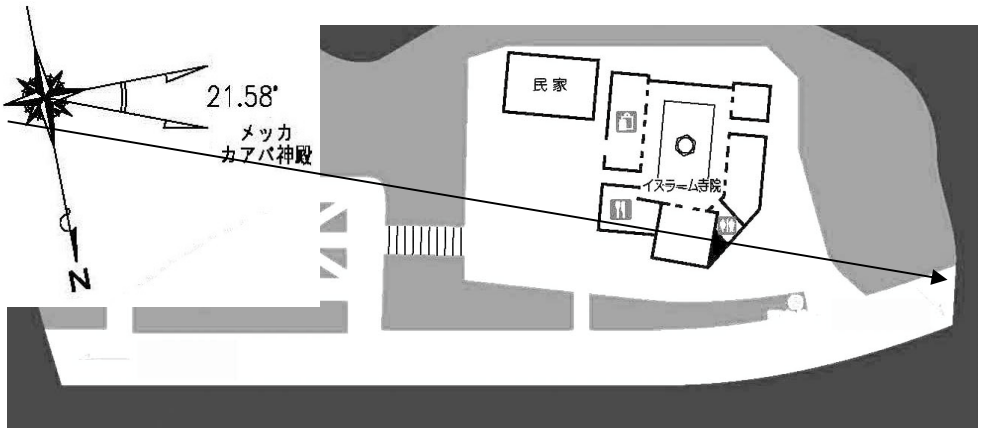


## 「トルコ イスタンブールの街」<sup>まち</sup>

古来より文明の十字路として栄えてきた世界有数の大都市、イスタンブール。1600年もの間、いくつかの帝国の首都であった旧市街は、ユネスコの世界文化遺産にも指定されています。ここに復元したイスラーム学院(メドレセ)は、オスマン帝国時代に建設され、今も旧市街にたち活用されている建物をモデルとしています。



### 【微妙にずれた配置 キブラ Qibla】

周遊路や側溝からみて、家屋が微妙にずれているのわかりますか？今回の建物の配置の軸は、キブラと呼ばれる方角です。イスラームを信じる人びと(ムスリム)は1日5回の礼拝を義務としています。その礼拝は聖地メッカのカアバ神殿(サウジアラビア)に向かってするものと決まっており、その方向を示すために、復元したメドレセの講義室にもミフラーフというくぼみを壁に設けてあります。このミフラーフのある壁を正確にメッカに正対させるため、<sup>げんみつ</sup>厳密に計算して、家屋の配置を少しずらしました。

リトルワールドの小さなこだわりです。

## メフメット・アーってどんな人？

展示家屋のイスラーム学院（メドレセ）を建てた人、メフメット・アーはオスマン帝国のトプカプ宮殿で、ハーレムを司る責任者でした。ハーレムはスルタン（王、皇帝）のプライベート空間であり、スルトンの妃たちや子どもたちが暮らす場所でもありました。御所でいえば「後宮」、江戸城でいえば「大奥」のようなところですよ。

この役職の正式名称はダリュッサーデ・アースですが、親しみを込めてクズラルアースと呼ばれました。クズは「乙女」という意味で、ハーレムに暮らす女性たちをとりまとめる役目からついたそうです。

次の王となる皇太子やその母と常に接し、親身に世話をし、信頼を得なければ務まらない役目です。もちろん、スルタンとも日頃から接する立場ですので、自然と発言権が増し、宮殿の中では、スルタン、大宰相に次ぐ高い地位にありました。

クズラルアースになるためには、いくつかの条件がありました。帝国の中枢を担う人材ですので、頭脳明断であることは当然です。ハーレムを守るという重要な役目のためには、さらに清廉潔白、品行方正でなければなりません。スルトンの妃たちとの清い関係をはっきりさせるために、ハーレムに務める男たちはみな去勢をした者、宦官でした。

ムスリムは去勢を禁止されているので、異教徒・異民族の少年を去勢して宦官とすることが常でした。メフメット・アーもトルコ人ではありませんでした。彼はアビシニア、今のエチオピア出身の黒人でした。奴隷とされ、去勢され、エジプト経由でイスタンブールに連れてこられる途中で、イスラームに改宗し、頭角をあらわし、出世したのです。

妻子もないメフメット・アーは、宮廷生活で得た財を寄進し、メドレセやモスクやハمامといった、人びとの役に立つ施設をつくったのです。このモデルとしたメドレセ以外の建物もイスタンブールには残っており、人びとの集う場所として活用されています。